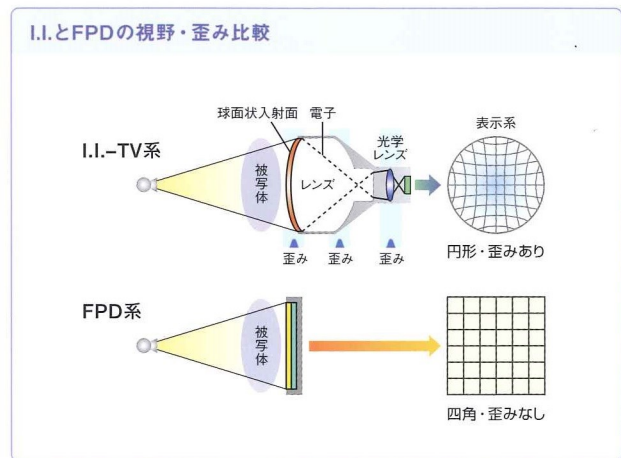


2018.01 バリウム検査機器のリニューアル

- ・バリウム検査機器を更改して、バリウム検査をリニューアルいたしました。



被ばく低減効果の向上と、高画質を両立

17"×17"サイズの超大視野FPDにより、1回の撮影・透視で広い領域をカバーすることが可能です。大視野・高画質透視が目的部位の効率的な検査をサポートし、結果として透視線量の低減や透視時間の削減につながります。

今までは検査台に横たわり、胃の上部から放射線で撮影した画像をベッド下部にある「I I (アイアイ)」で画像にしていたましたが、上記右図のように画像が丸く、歪がでていました。

今回導入しました検診台は「FPD」タイプで、画像を受け取る場所がフラットなパネル状になっており歪がなく画像も大きくなることから、使用する放射線量も低減することができ、受診者の方にやさしい検査機器となっています。